

道徳科学習指導案

令和2年10月 第6学年 指導者 齋藤 こず恵

1 主題名 かたよらない心 内容項目 C-(13)公正、公平、社会正義

2 教材名 「森川君のうわさ」 (出典:「ゆたかな心」光文書院)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領第5学年及び第6学年内容C-(13)公正、公平、社会正義「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」に基づくものである。人間は、それぞれ個性があり、違った価値観をもっている。それぞれが尊重されるべき人格であるが、ときに、相手によって態度を変えたり、自分の気分や好き嫌いで行動したりしてしまうことがある。だからこそ、そのような感情に目を向け、常に偏りはしないかと自己を見つめていくことが大切であると考えられる。そのような自分の感情を自覚した上で、誰にでも公正、公平に接したいと願い、そのためにはどのように行動することが大切なのかを考え、実践しようと努力することが正義の実現につながっていくのではないかと考える。

(2) 児童の実態について

1学期を振り返った児童の作文には、「楽しくいいクラスでよかった」「みんな仲がよい」「新しい友達ができた」「友達との仲が深まった」といったクラスに対する肯定的な言葉が多く見られ、教室やクラスの友達に対して居心地のよさを感じている児童が多い。しかし、クラスの意見を集約する場面では、提案されている内容ではなく、発言者か誰なのかという点によって決めようとする児童も見られ、特定の児童の発言が支持される傾向がある。自分の考えではなく、好き嫌いや仲のよさが判断基準になってしまうことや、周りの雰囲気流されてしまうことも多い。そのため、意見や考え方が違っていても仲のよい友達の考えに同調する児童や、意見があってもその場では声に出さない児童も少なくない。本学習を通して、一部の考え方や情報をうのみにすることは偏った見方であり、そのことが自覚のないまあいじめにつながってしまうことがあることに気付かせ、偏見やいじめのないクラスの実現に向け意欲を高めたいと考える。

(3) 教材について

本資料では、主人公のクラスの「森川君」がささいな理由で仲間外れにあってしまう。仲間外れをする子供たちは、うわさ話に左右され明確な理由や自覚のないまま森川君を仲間外れにしていく。主人公は第三者の立場として他の児童同様に様子をうかがっているが、森川君を思う気持ちと自分を擁護し問題から目を背けようとする弱い気持ちとの間で葛藤していく。主人公のクラスの問題点や葛藤を自らの体験と関連付けて見つめることを通して、常に正義を貫こうとすることは決して容易ではないことを自覚しつつ、どのように考え、対処しようとするかが大切なのかを考えられる教材であると考えられる。

4 指導方針

○自分のこととして捉えるために

- ・導入において平易で考えやすい発問から伝え合う場面を設定する。
- ・挙手発言にこだわらずに、友達とのやり取りを通して率直な思いを発する話し合い活動を設定する。
- ・話し合いで出た考えを見直したり、次の会話へ発展させたりできるよう記述する場を設定する。
- ・積極的な机間支援を行い、話し合い活動をより促せるようにする。
- ・じっくり考え、自分の納得した考えを導き出せるように、話し合い活動の時間を十分に確保する。

5 本時の展開

(1) ねらい

一面的な見方や情報などを鵜呑みにすることは偏った見方であることに気付き、差別や偏見のない公正、公平なクラスにしようとする。

(2) 準備

教師：教科書、場面絵、模造紙、ペン、ワークシート

(3) 展開（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

学習活動と発問	時間	予想される児童生徒の反応	支援及び指導上の留意点 ◎研究上の手立て
<p>1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。</p> <p>○うわさ話でのトラブルや困ったことなどあるある経験談を教えてください。</p>	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・うわさを信じたら本当は嘘だったことで友達を信じられなくなった。 ・うわさ話が原因で友達とけんかになった。 ・急に無視されたことがある。 ・ウソのうわさを流された。 ・悪口を言われているような気がして嫌だ。 	<p>◎感じたことを活発に発言できる雰囲気をつくるために平易で考えやすい発問から伝え合う場面を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいとする道徳的価値へ方向づけられるよう、偏った見方や情報によって、傷ついた経験をもつ児童がいることを確認する。
<p>【めあて】公正公平なクラスにするためにはどんなことが大切だろうか。</p>			
<p>2 教科書の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち交流する。</p> <p>○このクラスの出来事について、どんなところに問題点があると思いますか。登場人物それぞれの問題点を考えてみましょう。</p> <p>◎このクラスではうわさ話に惑わされて仲間外れを起こさせないために、一人一人がどんなことを大切にしていればよかったですか。</p>	<p>3分</p> <p>8分</p> <p>20分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公は本当のことを言えなかった。 ・自分のことしか考えていない。 ・うわさ話をみんなに流した。 ・石山君たちは森川君を無視した。 ・うわさを信じすぎて周りの考えに流されている。 ・本当かどうかわからないのに、みんなで森川君を仲間外れにした。 ・うわさをうのみにした。 <ul style="list-style-type: none"> ・そのまま信じるのではなく、本当のことが何なのかきちんと自分で確かめるとよかった。 ・公平な目で誰にでも接するようにすること。 ・相手によって態度を変えるのではなく、正しいと思ったことをやり抜くこと。 ・周りの考えに振り回されない。 ・思っていることは、きちんと言 	<p>◎自由な発言への意欲を更に高めるとともに、教材文のクラスの課題点を全員が把握し自分に置き換えて考えられるように友達と話し合う時間を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題点を友達と話し合うことで、道徳的課題を体験的に捉え身近な問題として考えられるようにする。 ・うわさは偏った情報であり、真偽は分からないことを押さえられるように問い掛ける。 <p>◎友達との自由なやり取りを通して率直な思いを発し、自分の考えに気付いたりまとめたりできるよう話し合い活動の時間を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との会話の中から、自分の納得する考えをまとめているよう、時間を十分に確保する。 ・児童同士のやり取りが活発になるよう、発言を聞きながら

		葉にして伝えること。 ・仲がいいからといってひいきしないこと。	称賛したり、「何で」「どうして」などの問い掛けをしたりする。 ・多くの児童の意見を全体でも共有できるよう、自分が納得できた考えを模造紙に書くように促す。
4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○今までの自分の生活と今日の授業を振り返り、公正公平なクラスにするためにはどんなことが大切でしょうか。	8分	・うわさ話は友達とすると楽しくて盛り上がっていたけど、気付かないうちに悪口になっていたりその人を傷つけていたりしたのかもしれない。これからは、何か違うと気付いたときには、ほかのいろんな友達と話したり、自分できちんと確かめてから考えたりできるようにしたい。	・導入での「うわさ話あるある経験談」を基に、誰に対しても同じ態度で接する大切さや、差別せず平等に接することの大切さを分かっているのに、実生活ではできないことも多々あるという矛盾に気付かせ、どうすればよいかと考え振り返られるようにする。

(4) 評価の視点

○その場の雰囲気やひいき的な感情から偏った見方をしてしまうことがあることを自覚しつつ、公正、公平なクラスにするためにどのようにすることが大切か自分なりの考えを記述したり発言したりしている。

(5) 板書計画

